

第十九回本郷ふじやま公園古民家歴史部会歴史散策(東海道)

平成 19 年 5 月 10 日(木) 横浜高島屋正面玄関 10 時 00 分集合同刻出発(横浜新道入り口の蕎麦屋で昼食)
当日 6 時 25 分の NHK 天気予報降雨率 50 % 以上の時は翌週 17 日(木)に順延します。

行程；横浜高島屋正面玄関前→22高島山公園，埋立てと高島嘉右衛門・弁玉の歌碑・高島易断の碑
→23三宝寺→24台の一里塚→25大綱金比羅神社→26台町の茶屋→27神奈川台の関門跡→
→28嘉右衛門公園→29上台橋→30浅間神社→31追分→32横浜道岐路・(昼食蕎麦屋) 横浜道→「横浜
駅」(地下鉄高島町・京急戸部・JR桜木町へ)。

一口メモ

Ⅱ保土ヶ谷宿へ

22・高島山公園

高島山の名称は，かつて此の地に立って袖ヶ浦(現在の高島町)の埋立てを指揮した高島嘉右衛門(かゐん)・天保～大正(1832~1914)・(建築請負実業家・材木商・洋銀売買・回船問屋・大旅館・高島学校・ガス会社・易学・墓所東京高輪泉岳寺)に由来する。山の上からは嘉右衛門によって埋め立てられた横浜駅周辺が見渡せる。望欣台(おウングアイ・眺め喜ぶ)の碑がある。

此处は嘉右衛門が晩年屋敷を構えた所。現在の横浜駅から桜木町駅方面の一帯は当時海であった。鉄道工事は神奈川青木町から野毛海岸石崎までの海に築堤し，そこに線路を敷設するというものである。築堤は長さ 1.4 km，幅 80 m，うち幅 10 m を鉄道要地，12 m を道路用地，残りを請負人の土地にするものである。工事条件 135 ヶ月で完成，工事遅れは 1 ヶ月につき長さ 10 m の土地没収。政府の入札に参加したのは高島嘉右衛門だけであったが，期間内に完成させ，埋め立て地の一部は高島町と命名された。この偉業を讃える望欣台の碑で，友人荒木政樹撰文，三宝寺 21 世住職の弁玉(べんぎょく)の筆によるもの(歌人・明治 10 年建立)。弁玉師倭歌碑(和歌)幕末から明治初期にかけて神奈川三宝寺の住職であった歌人である弁玉を顕彰する碑である。碑には彼の作である歌も刻まれている。

23・三宝寺

浄土宗・瑠璃光山医王院・本尊，釈迦如来坐像＝宝暦 13 年(1763)作。天正年間(1573~1592)の創建。弘仁 2 年(811)諸国に悪疫が流行し勅命で空海が 66 軀(からだ・り)の薬師を刻み六六ヶ国に安置祈願した。その時武蔵国の寺に安置したのが本尊と云う。大正 12 年の大震災，第二次大戦に被災，昭和 39 年に復興。平塚梅歌の墓。21 世弁玉は歌僧で，由良弁呂集を残した門前に一里塚があり初代広重描く東海道五十三次保永堂板に描かれている。

24・台の一里塚

日本橋から 7 つ目の塚・約 28 km。

25・大綱金比羅神社

祭神，大物主命，金山彦神，大和武尊・此の神社すぐ脇が一里塚。寛永 19 年(1642)伊那半十郎忠治の創建。東海道を往来する旅人たちの道中の無事を祈り，神奈川湊に出入りする海の男達の航海安全を祈願した。

26・台町の茶屋

かつては神奈川湊を見下ろせる景勝地・「さくらや」(文久3年1863) 現田中家、今の料亭田中屋付近と言う。茶屋軒並べ座敷2階造り、欄干付き廊下架け橋など渡して波打ち際の景勝にひたっていた。

27・神奈川台の関門跡

開港後、外国人が相次いで殺傷され、各国領事が幕府を非難、そこで主要地点に関門や番所を設け、警備体制を強化した。神奈川の東西に関門がつくられ、その一つが西側・神奈川台の関門。

28・嘉右衛門公園・内山岩太郎像

(1890~1971) 群馬県出身、現、東京外語大中退、著作、反骨77年 内山岩太郎は昭和時代の外交官、政治家。明治23年2月28日生まれ。昭和12年アルゼンチン公使、16年仏印(フランス領インドシナ)派遣の公使などを務める。21年神奈川県知事。翌年公選の初代知事、連続5期務める。昭和46年11月死去、81歳。

29・上台橋(カミダハシ)

かつてこの辺りは潮騒の聞こえる海辺の道、此の地に橋が出来たのは昭和5年(1930)。開発が進み切通しの道路が出来ると共に、その上に橋が架けられた。

(沢渡中央公園トイレ休憩)

30・浅間社

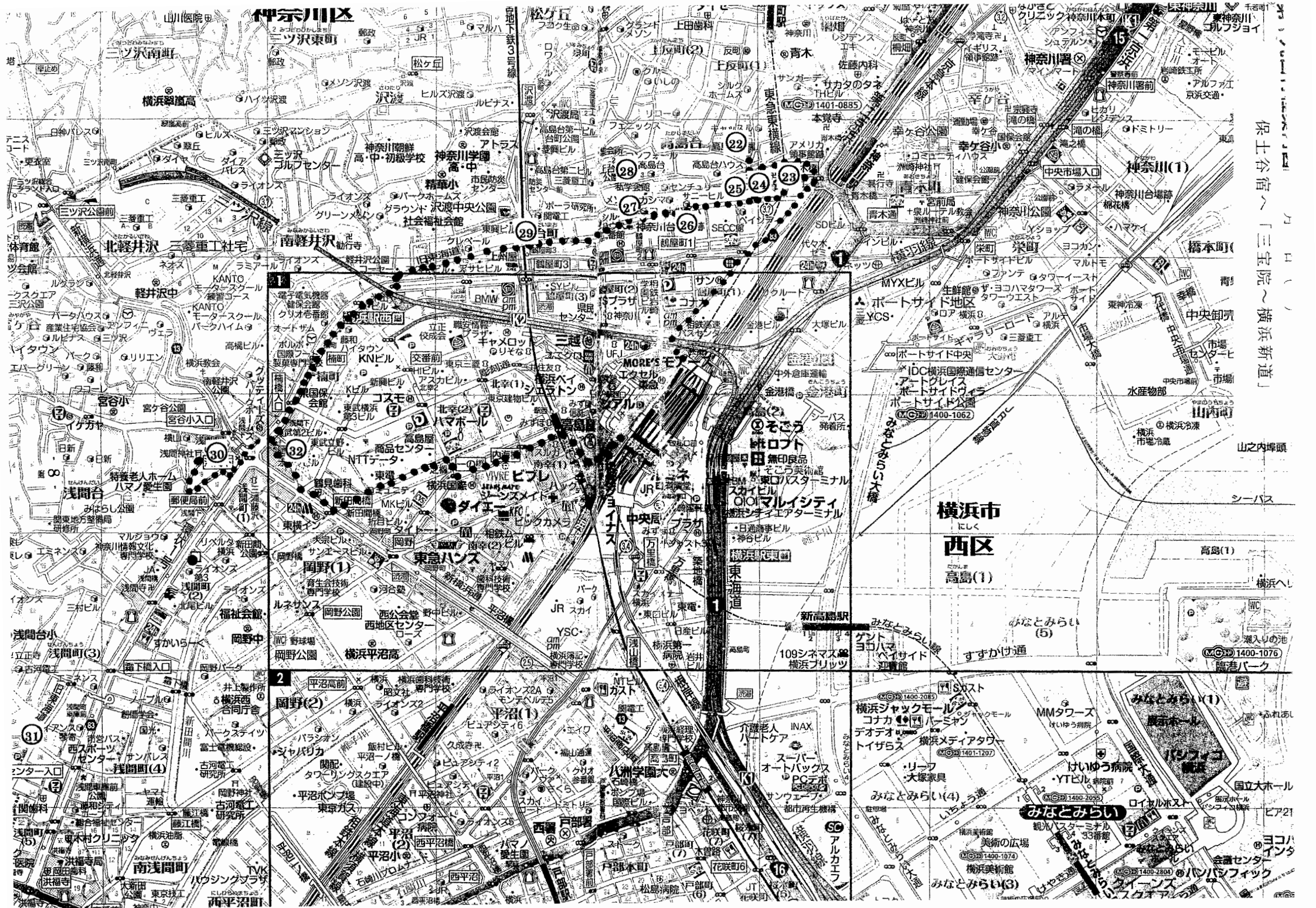
現浅間神社。 神奈川宿の西隣である芝生村の入口、神社には「富士の人穴」と呼ばれる、名所があり、既に17世紀中頃の東海道名所記にその名がある。

31・追分

神奈川宿と保土ヶ谷宿の中間辺り、東海道の名残有る芝生村を過ぎた所が追分。ここで道は二つに分かれるが、直進すると保土ヶ谷宿へ、右折すれば八王子往還となり、遠くは甲斐(山梨県)、信濃(長野県)、上野(コズケ・群馬県、上州)へと続いている。

32・横浜道岐路・横浜道

横浜道開通前東海道へは保土谷から井土ヶ谷、蒔田を通るか、神奈川から舟運しかなかった。安政5年(1858)年日米修好通商条約調印によって開国に踏み切った幕府は、神奈川開港を翌年6月決めた。当時は、東海道筋から横浜への交通は非常に不便であったため、幕府は東海道筋の芝生(シボリ)村から横浜に至る「横浜道」と呼ばれる道路を開いた。 此の道は、芝生村から湿地帯だった岡野・平沼の新田を経て戸部村まで直線道路を築き、新田間(アタマ)、平沼、石崎(現敷島橋)の三つの橋を架け、併せて戸部坂、野毛の切通しを開き、野毛橋(現都橋)、太田橋(現吉田橋)を架けたものだった。記録によれば道幅3間(約6m)・工期突貫工事三ヶ月・欄干杉材・杭松材と言われている。



保土谷宿へ「三宝山」横浜新道

シーバス

横浜へ

みなとみらい

みなとみらい

みなとみらい

みなとみらい